資料3　新聞掲載記事等　1/2

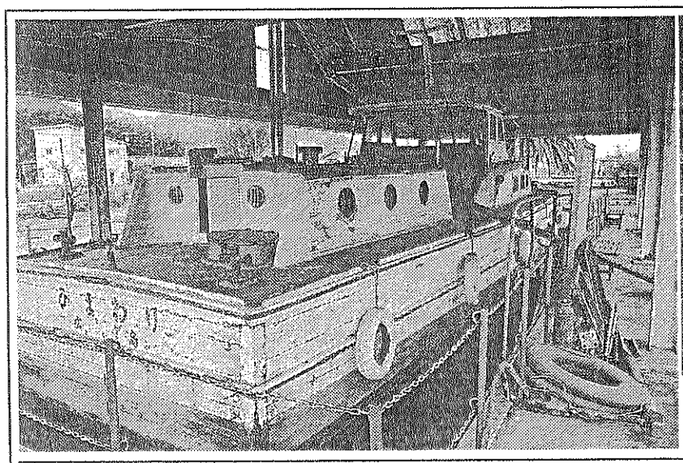
60～80年代、島々巡った「ひまわり」

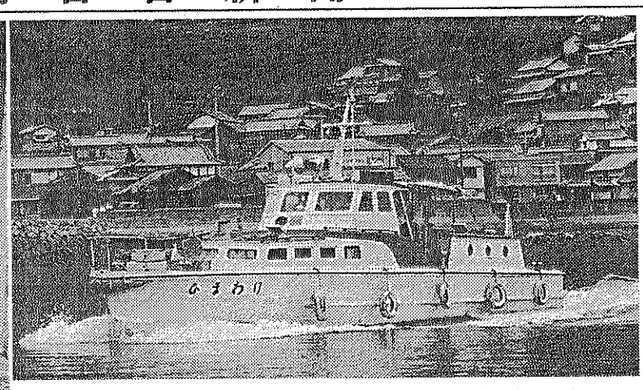
解体工事取り止め　改修保存の道!?

永井医師ら週末に作業

長年の屋外展示で老朽化

【17日付け「山陽余韻」で一部既報】1960年代から80年代、瀬戸内海の島々を駈け巡り、現在は瀬戸田町で屋外展示されている図書館船「ひまわり」(木造)。市は老朽化などから解体・撤去を決め、先月工事入札を行なったが、同時に地域住民から「知らないうちに消えるのはもったいない。自分達で改修してみるので取り壊しを待ってほしい」と申し入れがあり、解体が中止された。車社会になる前の時代、図書や映画フィルムを届け、島の文化と教育を支えた全国で唯一の移動する図書館船に再び注目が集まっている。［幾野伝］





全国唯一の移動図書館船

移動図書館船「ひまわり」は、広島県立図書館(広島市)が「島しょ部の人達に読書に親しんでもらいたい」と1962年4月に就航した。県立図書館では文化船と呼んでいた。

第六管区海上保安本部船舶技術部の設計、工事指導で61年に江田島造船所で建造。長さ14m、幅3・65m、深さ1・76m、総トン数19・75tの木造船。最大速力は19ノットだった。公募で「ひまわり」と名付けられた。

白色の高速船を思わせるスマートな船体で、1500冊の図書や映画フィルムを積み込んで瀬戸内海の15の島々を走り渡り、28市町を訪れて延べ728ヶ所の配本所を廻った。

特に小学生を中心に多くの島民に親しまれ、瀬戸田町にも当初から寄港していた。船体の老朽化と島々に橋が架かり道路交通網の発達、自動車の普及から、81年7月に移動図書館車「みのり号」にバトンタッチ、廃船になった。

20年間の総航行距離は地球2周半分にあたる9万2000㎞。利用者数は延べ45万人で70万冊が貸し出された。

同11月に県から当時の豊田郡瀬戸田町に寄贈され、同町林、B&G財団瀬戸田海洋センターの敷地内に屋外展示された。

展示施設は目の高さに合わせるため船が半地下に収まり、全体に屋根が架けられている。なぜ旧瀬戸田町に寄贈されたのかは不明だが、当時の町政には瀬戸内文化の遺産を後世に残したいという意思があったと思われる。展示の説明板には「文化船『ひまわり』を永遠に保存し文化教育資料として活用するため建設した」と記されている。

しかし廃船、保存から34年が経過し船体は傷みが激しくほこりをかぶり、ガラスは割れたままになるなど地域の人からも忘れられてしまった。船の存在さえ知らない住民や職員もいるほどで、改修・保存か解体・撤去かの岐路に立っている。

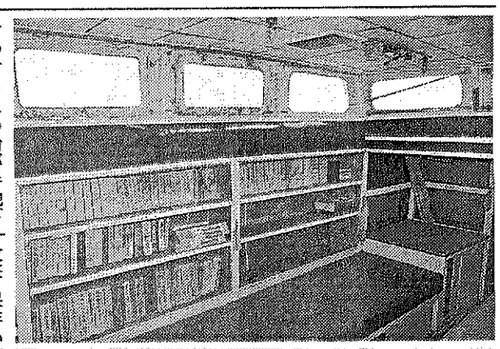
市教委によると、B&Gを指定管理するNPO法人フレンド・シップせとだから、敷地を有効利用したいと要望があり、以前から子供が入って危険との声があった「ひまわり」の解体・撤去を決めた。

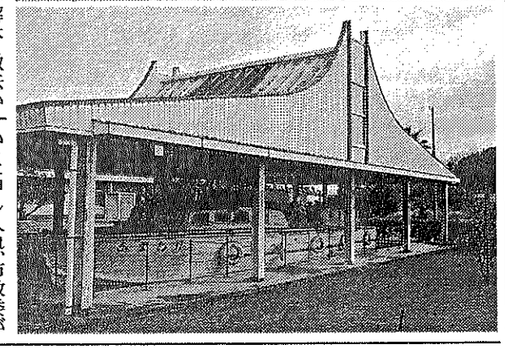
2月中旬に入札で工事業者を選定(工事額約100万円)したが、撤去の話を知った同町瀬戸田、永井医院の永井晃医師(70)が「人々の記憶からも忘れられ、その歴史を知らないうちに壊され消えてしまうのはもったいない。自分達できれいにしてペンキを塗り直したい」と申し入れ、市教委が解体計画を中止した。

永井さんは町内と三原の友人を誘って、週末の土・日曜日に集まって船体の清掃とペンキを塗り直す下準備を始めている。「もっと簡単に出来ると思っていましたが、今ある塗装を剥がすのも大変。自分達で出来ることを進めながら、船のことを地域に知ってもらうためにも、地域の小学生や中学生にも力を借りたい」と話している。

市教委生涯学習課によると、以前船を改修する場合の工事費を試算すると約350万円だったと言う。安保成二スポーツ振興担当主幹は「今は改修活動の状況を見守っている」と話している。

永井医師は「移動図書館車はたくさんあるが、図書館船は全国に一つしかない瀬戸内海の歴史と文化を伝える貴重な資料。将来的には築50年以上のあらゆる構造物が対象となる、国の登録有形文化財への登録をめざしたい」と大きな目標を掲げている。





高垣直矢さん文科大臣賞

全日本年賀状コンクールで

日本郵便が募集した第12回全日本年賀状大賞コンクールで、栗原中学校3年(卒業)、高垣直矢さんの作品が絵手紙部門の文部科学大臣賞を受賞した。

スニーカーを画面いっぱいに描いた受賞作(=写真の作品)には「ぼくのくつが一番大きくなりました。今年もじいちゃんばあちゃん宛に書ける喜びを感じています。また、行くからね」と祖父母への言葉が添えられていた。

19日午後、土堂2丁目、尾道郵便局局長室で表彰式が行われ、矢田和徳局長から賞状や記念品が手渡された(=写真)。

コンクールは絵手紙のほかに版画、ことば部門があり、幼児から一般まで合わせて12万8000点以上が寄せられた。高垣さんの中学絵手紙部門には最多の2万8794点の応募があり、年賀状大賞に次ぐ文部科学大臣賞に輝いたもの。

他にも市内からは絵手紙部門とことば部門に、小学生2人が奨励賞に入った。［幾野伝］

尾道市東京事務所便りから

クロスロードみつぎ　重点「道の駅」選定証授与式

現在「道の駅」は全国で1040駅が稼動していますが、「地方創生」の流れと連動して、「道の駅」を地域活性化の拠点とする取り組みが始まっています。

この動きをさらに大きなうねりにしようと、国土交通省は「重点「道の駅」制度」を創設しました。全国から6つのモデル「道の駅」と35の重点「道の駅」が選定され、2月26日太田昭宏国土交通大臣、石破茂地方創生担当大臣をはじめ関係者多数の出席の元に、砂防会館において選定証授与式が行われました。

「クロスロードみつぎ」も御調高校と連携した新商品開発や、地元企業や農業への就労を促した点が評価されて、重点「道の駅」に県内で唯一選定されました。

冨永嘉文副市長、内海龍吉㈱みつぎ交流館代表取締役(「クロスロードみつぎ」指定管理者)、園田学御調支所長、川口顕裕東京事務所長が授与式に臨み、冨永副市長が太田大臣から選定証をいただきました。

その後交流会に移り、41の道の駅がそれぞれの特産品を展示し、参加者に大盤振る舞いして会場が熱気に包まれました。詳しくは国土交通省のサイトでも紹介しています。是非ご覧下さい。